

景気底打ちへの期待から一転、悪化傾向に

―卸・小売業では改善の兆しも、建設業では底割れ感が顕著に

景気見通し調査

○調査目的／管内の小規模事業所の短期的な景気動向を把握するため、毎年3月・6月・9月・12月の年4回実施

○調査時期／平成21年6月12日～18日

○調査方法／FAXによる送付、回収

○調査対象／当所会員小規模事業所より1600件を抽出

○回答数／322社（回収率20・1%）

「DI値」とは「デフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、景気動向を示す指標。「良」「上昇」とする企業割合から、「悪い」「下落」とする企業割合を差し引いた値である。

調査結果の概要

①業界全体の景況DI値は▲92・2と前回調査（H21年3月）と比べ4.1ポイントのマイナス。前回、前々回調査では、ほぼ横ばいで推移し景気底打ちへの期待感が見られたが、今回は底割れの結果に。「業界景況」「自社景況」ともに今回調査では現況を「良い」と判断

した企業は1社もなく、更に厳しい状況が浮き彫りに。

②今後3ヶ月の先行きは、「業界の景況」「自社の景況」「売上」「採算」「販売価格」それぞれで数値の改善が見られるものの、回復の見込みについては不透明で依然として低調で推移すると予測。

③各業種の景況判断

【製造業】
業界DIは、自社DI、売上DIでマイナス幅が拡大。採算DIは大きく改善

【建設業】
業界DIははじめ全ての項目でマイナス幅が拡大。特に売上DIは大幅に悪化

【卸・小売業】
業界DIははじめ全ての項目でマイナス幅が縮小。特に採算DIは大幅に改善

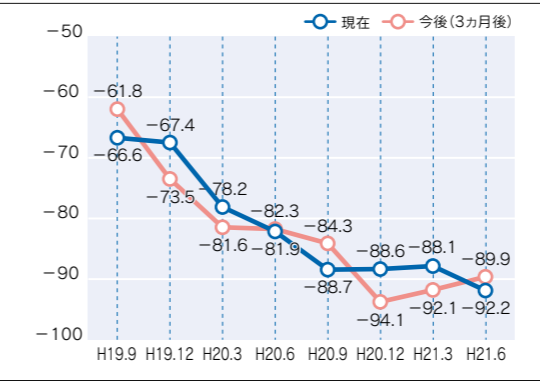
【サービス業その他】
業界DIはマイナス幅が縮小、その他の項目はマイナス幅が拡大

業界の景況

業界全体の景況DI値は▲92・2と前回調査（H21年3月）と比べ4.1ポイントのマイナス。前回、前々回調査では、ほぼ横ばいで推移し景気に底打ち感が見られたかに思われたが、ここきて更に悪化。

業種別にみると、「卸・小売業」で3.6ポイントの改善が見られるが、その他の業種ではマイナス幅が拡大。

【図1】業界景況DI値の推移



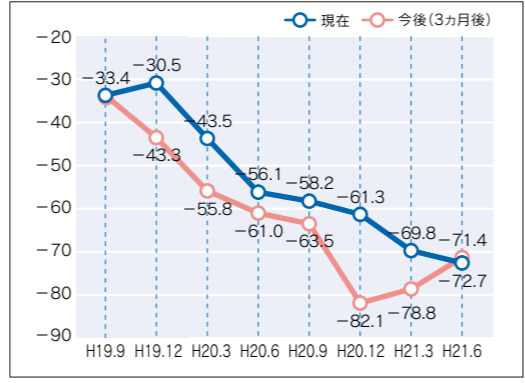
自社の景況

今後のDI値は▲81・3、これも業界の景況感と同じく前回調査と比べ7.1ポイントのマイナス。理由としては、「先が見えない中で設備投資の意欲が減退（製造業）」「価格安で厳しい上に受注も激減（建設業）」「所得減による個人消費の冷え込み（小売業）」など売上が立たない苦しい現状がうかがえる。

売上（受注高）

現在のDI値は前回調査より2.9ポイントのマイナスで▲72・7と悪化。業種別にみると「卸・小売業」で若干の改善が見られるほかは、全てで悪化しており、特に「サービス業・その他」、「建設業」では大幅な悪化が目立つ。

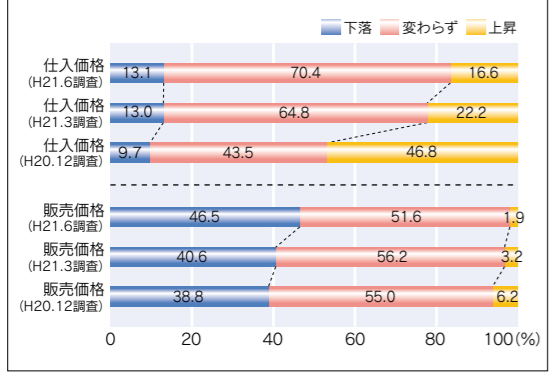
【図2】売上状況DI値の推移



仕入価格・販売価格

仕入価格は、現在の状況では「変わらず」と回答した企業が約7割

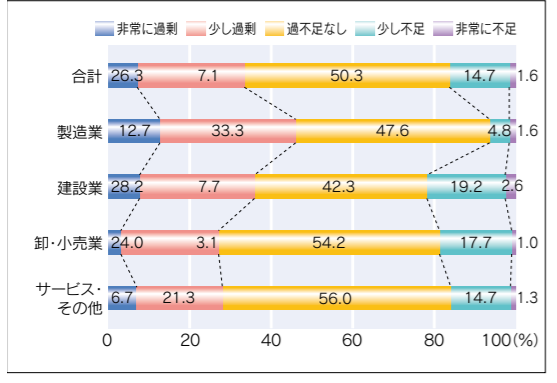
【図3】仕入価格・販売価格



労働力の過不足感

「過剰」（非常に過剰）「少し過剰」と回答する企業が33・4%で前回調査と比べ過剰感が増加、「不足」（「少し不足」）

【図4】労働力過不足感（業種別）



経営上の課題

内部要因では「受注・販売力不足」と回答している企業が最も多く66・7%、次いで「販売・営業力不足」43・4%、「資金調達」26・9%となっている。売上・受注減に苦しんでいる企業の実情がうかがえる。

外部要因としては「同業他社との競争激化」、「価格競争激化」が圧倒的に多く、6割を超える企業が課題に挙げた。前回調査と比較するとほぼ同じ傾向となったが、「原材料の高騰」が減少しており原油高による影響は一段落したと言える。

「本調査に関するお問い合わせ先」
福井商工会議所 金融・税務相談課
TEL0776(33)8284